

第1回 県立高等学校改革懇談会 『いわき総合・好間』

日時：令和4年7月21日（木） 15:00～16:30

場所：福島県立いわき総合高等学校 会議室

福島県教育委員会

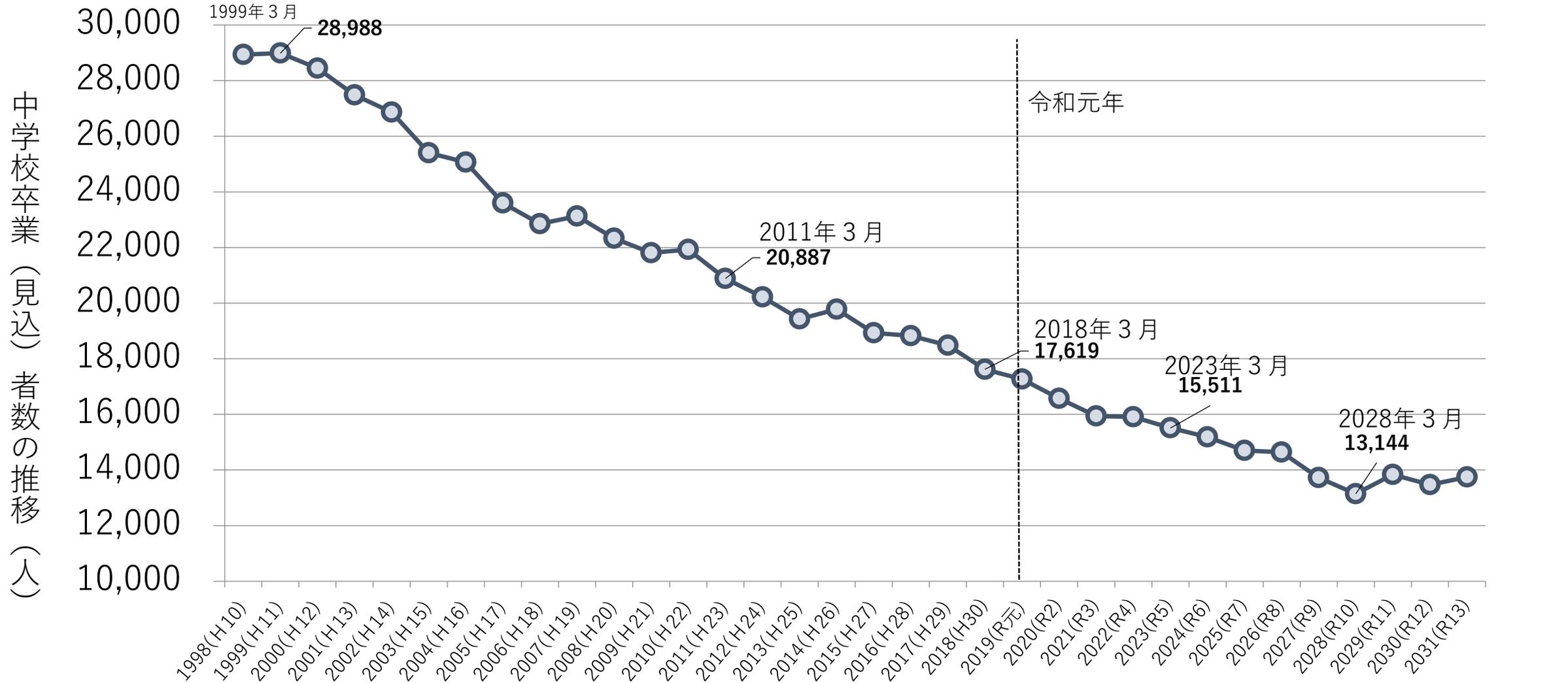
本日の内容

1	県立高等学校改革基本計画及び後期実施計画策定の経緯
2	いわき総合高校・好間高校の入学状況と いわき市の中学校卒業見込者数の推移
3	今後の再編整備

1

県立高等学校改革基本計画及び 後期実施計画策定の経緯

少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）

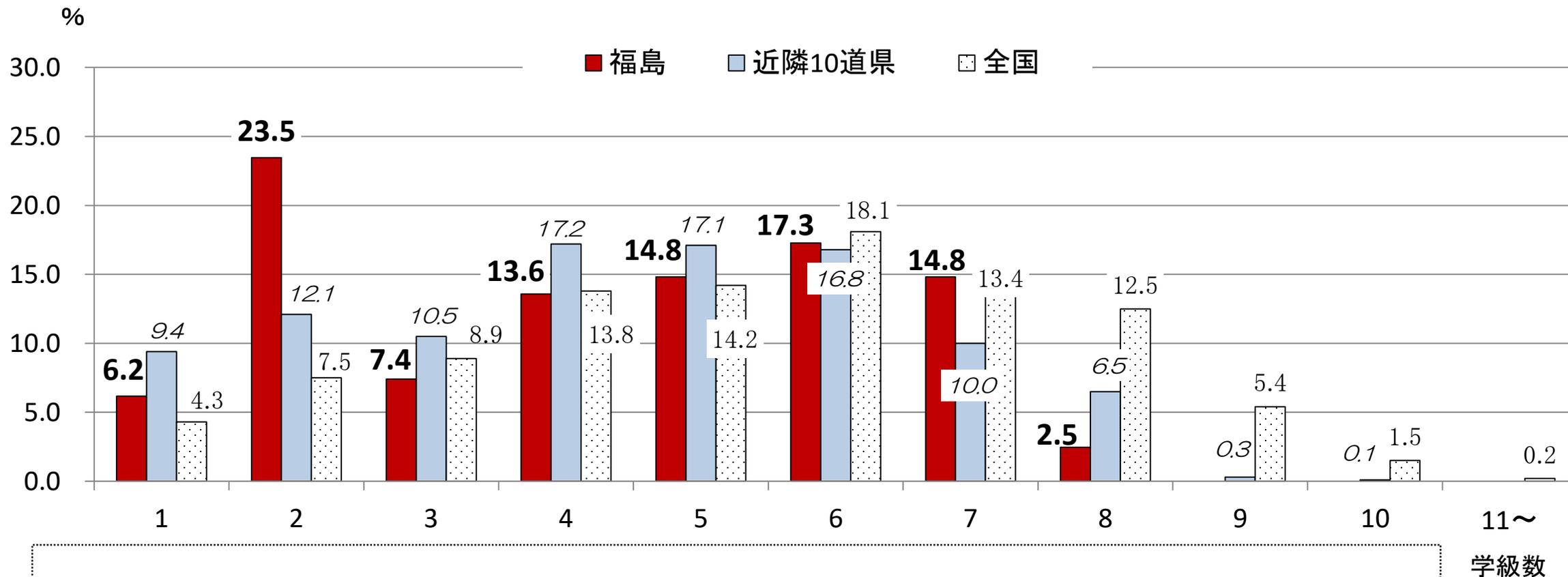


出典：2017年（平成29年）までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。
 2018年（平成30年）3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。
 2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」（2017年4月1日現在）の各年齢別のデータをもとに作成。

（年3月卒業）

県立高等学校の小規模校化

1学年当たりの学級数で見た学校規模の比較（福島県・近隣10道県・全国）



出典・「平成30年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」(富山県教育委員会調べ)をもとに作成。
分校を含む2018年度（平成30年度）都道府県立高等学校全日制課程の募集定員。近隣
10道県は、北海道、本県を除く東北5県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県。

本県の高等学校教育を取り巻く様々な動き

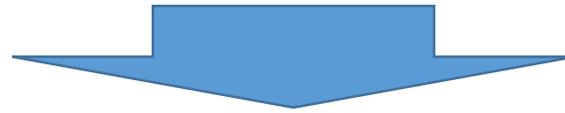
本県をめぐる社会情勢の変化

- 人口の減少・**少子化のさらなる進行**（中学校卒業予定者が10年間で約5,300名減少）
- 過疎化・高齡化（地域コミュニティの維持が課題）
- 高等学校教育を取り巻く状況の変化（主権者教育の重要性、大学入学共通テストの導入）
- **高等学校の小規模化**（3学級規模以下の高校の増加）
- 生徒の学習ニーズの多様化（学ぶ意欲や目的意識、興味、関心、進路指導の多様化）
- 東日本大震災と原子力災害からの復興・再生
（本県の復興に携わりたいという思いの芽生え、福島イノベーション・コースト構想の推進）

高等学校改革が必要

県立高等学校改革計画「**第一次まとめ**」(平成9年)・「**第二次まとめ**」(平成11年)

福島県学校教育審議会 2017年(平成29年度) 答申
「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」



県立高等学校改革基本計画の策定 平成30年 5月
(令和元年度～令和10年度) 10年間

県立高等学校改革**前期**実施計画 (令和元年度～令和5年度) 5年間

県立高等学校改革**後期**実施計画 (令和6年度～令和10年度) 5年間

県立高等学校改革の基本方針

基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくりを推進すること」

【4つの基本方針】

基本方針 1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む
高等学校教育の推進

基本方針 2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

基本方針 3 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化

基本方針 4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の
向上

再編整備・魅力化の基本的な考え方①

○ 学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模

1学年4～6学級

1学年3学級以下の高等学校については、学校の魅力化を図りながら都市部も含めて統合を推進

○ 望ましい学校規模への再編整備の推進

同一市町内や隣接する市町にある複数の学校のいずれかもしくは双方の学校が望ましい学校規模を維持できない場合に統合を推進
望ましい学校規模の中で可能となる魅力化の推進

再編整備・魅力化の基本的な考え方②

- 進路希望に応じた特色ある高等学校の配置
- 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- 学校の特色化と情報発信

6つの学校群



進学指導拠点校
進学指導重点校
キャリア指導推進校
地域協働推進校
職業教育推進校
定時制・通信制高校

前期実施計画の進捗

再編整備等

学校名	実施年度	統合校名/再編等の方向性 (学科・学級数)
安積・御館校	R2	募集停止
修明・鮫川校	R2	
川俣	R2	1学級本校化
猪苗代	R2	
只見	R2	
喜多方	R3	喜多方 普通・5
喜多方東		
小名浜	R3	小名浜海星 普通・1 商業・1 水産・3
いわき海星		

学校名	実施年度	統合校名/再編等の方向性 (学科・学級数)
須賀川	R4	須賀川創英館 普通・6
長沼		
大沼	R4	会津西陵 普通・4
坂下		
湯本	R4	いわき湯本 普通・6
遠野		
相馬東	R4	相馬総合 総合・5
新地		
保原(定時制)	R4	ふくしま新世 普通・1
福島中央		

学校名	実施年度	統合校名/再編等の方向性 (学科・学級数)
梁川	R5	伊達 普通・6
保原		
二本松工業	R5	二本松実業 工業・3、家庭・1
安達東		
白河実業	R5	白河実業 工業・5、商業・1
塙工業		
修明	R5	農業科の集約 文理・1、農業・3、 商業・1
耶麻農業	R5	会津農林 農業・4
会津農林		
田島	R5	南会津 総合・3
南会津		

特色化・魅力化の取組状況

- 単位制を5校に導入
- 教育プログラムとしてのコース制を18校に導入
- コミュニティ・スクールを6校に導入
- 地域コーディネーターを3校に配置
- 統合校と1学年1学級規模の本校に優先的にICT機器を配置

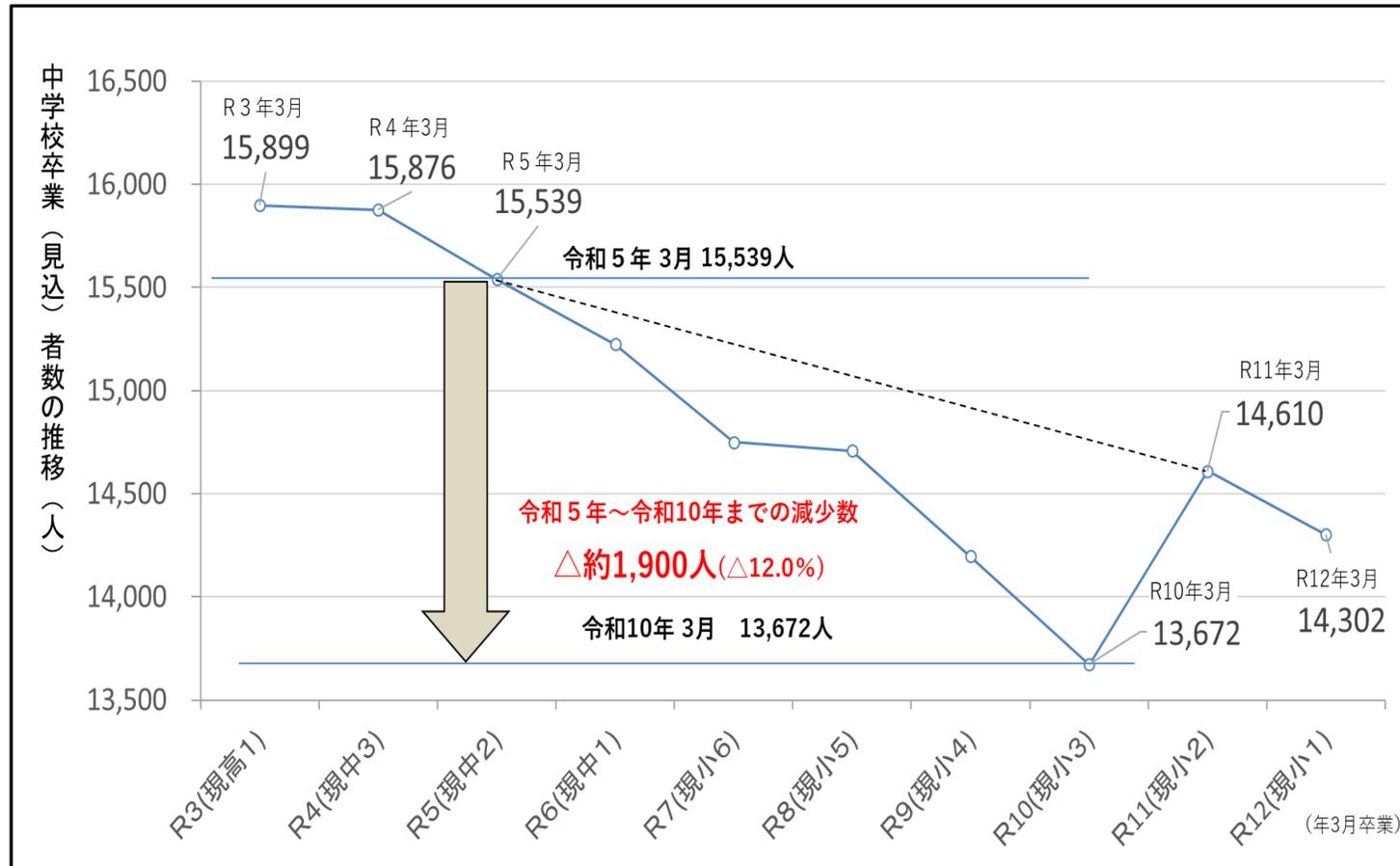
再編整備（統合）による期待される効果及び 前期統合校の成果

- 一定の集団規模を確保した望ましい学校規模の中で、生徒どうしが切磋琢磨しながら向上心を高め、人間性を育むことができる。
- 探究的な学びや他学科との連携など、新たな取り組みをとおしてより深い学びが実践できる。
 - (例)地域を学びのフィールドとした地域探究型学習が進んでいる。
 - 喜多方高校の国際交流と地域貢献を融合させた地域探究型学習
- 望ましい学校規模とすることによって、教員数が確保され多様な選択科目や部活動からの選択が可能となる。
 - (例)防災教育の導入や主権者教育の学校設定科目の新設がされている。
 - (例)コース制の導入や、選択科目の増加により生徒の選択肢が増えている。
- 設備の改修による学習環境の整備
 - (例)少人数指導用の教室が確保され、活用されている。

後期実施計画の内容

さらなる少子化の進行

- 令和12年3月までの中学校卒業見込者数の推移（全県）



出典：令和3年3月は福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。

令和4年3月～令和12年3月までは同「学校基本統計（学校基本調査報告書）」における各学年の在籍者をもとに作成。

2

いわき総合高校、好間高校の入学状況と
いわき市の中学校卒業見込者数の推移

入学状況

いわき総合高校

年度	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4
募集定員	240				200					
入学者数	240	240	240	240	200	200	200	186	194	200
充足率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	93.0	97.0	100.0

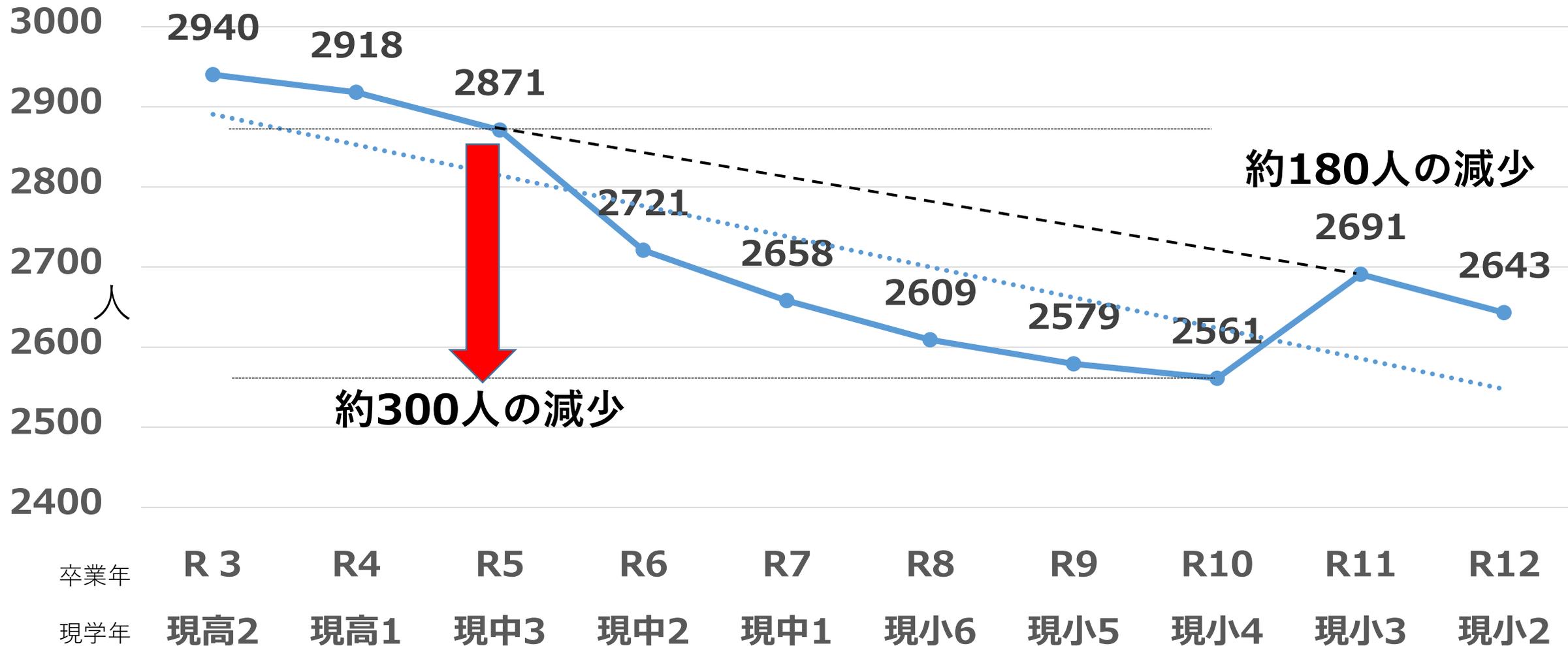
入学状況

好間高校

年度	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4
募集定員	80									
入学者数	65	75	69	61	66	80	77	76	68	50
充足率 (%)	81.3	93.8	86.3	76.3	82.5	100.0	96.3	95.0	85.0	62.5

少子化の進行

いわき市の中学校卒業生数と卒業見込者数の推移 (令和3年5月現在)



3

今後の再編整備

学校の沿革概要等

いわき総合高校

- 沿革（創立19周年 内郷高校を含めると75周年）
 - ・ 大正 3年 内郷村立農業補習学校を設立
 - ・ 昭和23年 新学制により福島県立内郷高等学校となる
 - ・ 平成14年 総合学科設置（7クラス）
 - ・ 平成16年 総合学科転換に伴い
福島県立いわき総合高等学校となる。
 - ・ 平成25年 いわき総合高創立10周年記念式典挙行

- 設置学科（令和4年度現在）
全日制 総合学科 1学年5学級 計15学級
系列 人文・国際、自然科学、生活福祉、
スポーツ健康、芸術・表現、情報

- 面積
校地面積 37,589㎡
校庭 26,485㎡ 校舎延面積 9,115㎡

好間高校

- 沿革（創立75周年）
 - ・ 昭和23年 福島県立内郷高等学校好間分校設置
農業及び被服課程各1学級
 - ・ 昭和29年 新校舎落成（現在地）
 - ・ 昭和38年 福島県立好間高等学校として独立
 - ・ 平成17年 募集定員120名
 - ・ 平成29年 創立70周年記念式典挙行

- 設置学科（令和4年度現在）
全日制 普通科 1学年2学級
計6学級

- 面積
校地面積 22,657㎡
運動場 13,550㎡ 校舎延面積 6,467㎡

進路状況（過去3年間）

いわき総合高校

進路先	大学	短大	専門学校	就職	その他	合計
卒業年度						
R元	59	14	70	39	9	191
R2	50	25	77	37	5	194
R3	60	15	80	28	8	191

好間高校

進路先	大学	短大	専門学校	就職	その他	合計
卒業年度						
R元	5	3	14	38	0	60
R2	7	0	24	45	1	77
R3	10	5	16	38	2	71

部活動

いわき総合高校

• 運動部

陸上競技 ハンドボール

硬式テニス ソフトテニス

バレーボール バスケットボール

野球 剣道 卓球

• 文化部

演劇 吹奏楽 合唱 茶華道

美術 写真 琴 JRC・インターアクト

家庭クラブフラチーム

好間高校

• 運動部

ハンドボール

ソフトテニス 柔道 総合運動

• 文化部

音楽 フラダンス 総合文化

※ 両校に共通して設置されているものについては、下線をつけて示してあります。

統合校の概要

いわき総合高校

定員200名
○ 総合学科（5学級）

好間高校

定員80名
○ 普通科（2学級）

令和7年4月開校予定

いわき総合・好間統合高校（仮称）

定員：240名 総合学科6学級

場所：いわき総合高校校舎

統合校の方向性

いわき総合・好間統合高等学校

キャリア指導推進校として、大学進学や就職など、幅広い生徒の進路希望や生徒の学習ニーズに対応した教育活動の充実を図り、地域を支える核として社会に貢献できる人材を育てる学校

- いわき総合の取組を継承し、高大連携による授業の実施等により、生徒の学びを深める教育活動の充実を図ります。
- 好間の取組を継承し、丁寧な学習指導により基礎学力の着実な定着を図ります。

総合学科の学び

総合学科

個性を生かした主体的な学習・自己の進路志望を深める学習を重視

幅広い選択科目から自分で選択

自分の時間割をつくる

いわき総合高校では、

1年次

「産業社会と人間」

自己の進路志望を深めるために全ての生徒が学ぶ

2、3年次

系列	主な選択科目
人文・国際	論理国語、異文化理解、英語会話上級
自然科学	数学総合演習、応用化学、地学
生活福祉	フードデザイン、基礎看護、子ども文化
スポーツ健康	ニュースポーツ、スポーツトレーナー実習
芸術・表現	声楽、絵画、演劇総合演習
情報	情報テクノロジー、会計演習

「系列」

とは、相互に関連の深い、いくつかの科目をまとめた科目群

検討する統合校の特色化

生徒の学習ニーズや進路
希望に合わせた多様な
科目群（系列）の設置

個に応じた丁寧な
学習指導や進路指導

芸術・表現系列に
おける高い水準の
教育内容の実践

主体的・対話的で
深い学びの実現

SDGsの視点を取
り入れた
学習の実践

大学等との連携

資格取得、検定合格
への支援の充実

今後の予定

会議等のスケジュール

第2回改革懇談会

(以降必要に応じて開催)

今後必要となる組織

改革懇談会でいただいた御意見を具現化するための組織

- 教育内容検討委員会（両校の教職員で構成される検討委員会）
- ワーキンググループ（各校の校内検討委員会）